

伝アリストテレス作『大道德学』のテキスト研究 (I)

新島, 龍美
九州大学大学院比較社会文化学府文化動態講座

<https://doi.org/10.15017/17111>

出版情報 : 比較社会文化. 16, pp.51-64, 2010-03-20. Graduate School of Social and Cultural Studies, Kyushu University

バージョン :

権利関係 :

論文

伝アリストテレス作『大道德学』の テキスト研究 (I)

A Study on the Text of the supposedly Aristotelian *Magna Moralia* (I)

2009年11月9日受付, 2009年12月14日受理

新島 龍美*

Tatsumi NIIJIMA

キーワード: 『大道德学』(*Magna Moralia*)、ズーゼミール校訂、タイプナー版、印刷ミス、誤報告、写本

要旨

本研究は、アリストテレス作と伝えられる『大道德学』(*Magna Moralia*)のテキスト校訂に関わる作業の一環として、従来学問的に最も高く評価されてきたズーゼミール校訂のタイプナー版の検討を行うものである。本稿は、その最初の作業として、同版の「印刷ミス」、および、用いられた諸写本や印刷諸刊本の読み方並びに先行研究によって提案された推測(conjectures)の報告に関する誤りを指摘し、新たな批判校訂版の必要性を示す。

本稿はアリストテレス作と伝えられる『大道德学』(*Magna Moralia*)のテキスト校訂に関わる作業の初めに位置するものである。

40数篇を数えるアリストテレスの現存作品のテキストの内⁽¹⁾、その大半には、20世紀以降に出版された、Oxford Classical Texts、Budé版、Teubner版などの古典叢書や、W. D. Rossの一連の著作を一つの典型とする注釈付き校訂本等々によって、(少なくとも相応程度には)信頼できる批判校訂版が存在する。他方、19世紀に出版された刊本が基本テキストに依然なりそうなのは、『色彩について *De coloribus*』、『聴音について *De audibilibus*』、『観相学 *Physiognomica*』、『異聞集 *De mirabilibus auscultationibus*』、『機械学 *De mechanica*』、『分割不可能な線について *De lineis insecabilibus*』、『風の方位と名称について *De ventorum situ et nominibus*』、『徳と悪徳について *De virtutibus et vitiis*』であり、本稿で取り扱う『大道德学』も後者に属する。しかも、後者に属する作品の殆どが(アリストテレス作品の基準テキストとされる)ベッカー版で10頁内外である⁽²⁾のに対して、『大道德学』のテキストは32頁に及ぶ。

勿論、出版物の新旧と良否は、原理的には別物である。

しかしながら、テキスト校訂に関しては、他のジャンルに比べて、より新しいものの方がより良いものである傾向が強いのではないか。

では、アリストテレス作と伝えられる『大道德学』の場合はどうであろうか。

I

『大道德学』のテキストとして一般に最も普及しているのは、恐らく、Loeb叢書に収められている、G. C. Armstrongによる英訳との対訳本⁽³⁾であろう(岩波書店刊行の『アリストテレス全集』第14巻所収の茂手木元蔵訳もこの版を底本としている)。しかしながら、一般読者をも対象としてテキスト校訂上の記述(critical apparatus)を最小限に抑えている同版は、専門的な研究の基礎とするにはやはり不十分と言わざるを得ない。

その結果として、我々は、Loeb版自身も底本としているF. Susemihl校訂のTeubner版⁽⁴⁾を出発点とせざるを得ないことになる(詳細な註解付きの独訳を著したF. DirlmeierもこのTeubner版を底本としている⁽⁵⁾)。

しかしながら、このSusemihl校訂のテキストについて

* 国際社会文化専攻・比較文化講座

は、既に幾つかの問題点が指摘されている。先行研究も参照して、まずはこれらの問題点を纏め、『大道德学』のテキストについての新たな研究の必要性を実感しておこう。

1. 印刷ミスといった即物的な問題から始めよう。W. D. Ross 監修の下刊行された英訳全集版⁽⁶⁾の『大道德学』で訳者の St. George Stock が脚注に“misprint”として表記した箇所は4箇所、その他に「Susemihl のテキストから偶然削除された」と表記された箇所が一箇所あるだけであり、Loeb 版の Armstrong がテキストの読み方に関して付した脚注の内「同種の」訂正箇所もほぼそれと同じ位の数である。それに対して、Dirlmeier が付録でトイプナー版テキスト中の“Druckfehler”として挙げている箇所は32箇所（Apparat の部分の3箇所を含む⁽⁷⁾）、（『大道德学』の批判校訂版への緒論で博士論文をオックスフォード大学に提出した）H. M. Johnstone がその他に“misprints”として指摘している箇所は本文42箇所、写本などの読みの異同を記載した apparatus criticus の部分7箇所⁽⁸⁾である⁽⁹⁾。

この大幅な（「飛躍的な」？）増加の理由は、「ミスプリント」や「誤植」として指摘することに込められた意味合いの相違によると解される。一方、Stock が“misprint”として明示的に表示している箇所は、（英訳という事情もあってか）Susemihl のテキストのままではギリシア語の構文上もしくは内容上読解不能の箇所を最小限指摘するという方針に基づくと推測されるし、希英対訳本の Loeb 版では、トイプナー版の明らかな誤植はそれとして明示することなしに訂正されており、Stock が“misprint”として指摘した箇所についても、何の指示もなく訂正されているか、訂正の指示があっても“misprint”という記載の仕方はしていない場合が多い。

他方、Dirlmeier 及び Johnstone が指摘する箇所が大幅に増大しているのは、彼らが網羅的な指摘を意図している故と考えられ、それは、より専門性の高い著作という性格、もしくは、新たな批判校訂版の為の準備といった目的に由来するものかとも推測される。

2. さて、本稿が多少なりとも専門的な論考を目指すとするならば、後者二人が指摘している箇所を網羅的に列挙すれば事は足りるようにも思われよう。しかしながら、事はそれほど単純ではない様である。というのは、Dirlmeier 及び Johnstone が“Druckfehler”や“misprint”として指摘しているものの中には幾つかの種類が含まれている様に思われるからである。そこで、多少の分類を行いながら、テキスト校訂の為の基礎固めの最初の作業を始めることにしよう。何事によらず正しい対処には、誤りや問題の性格の正確な見定めが前提とならうからである⁽¹⁰⁾。

単純な綴りの誤りによるもので、その結果ギリシア語の単語として存在しない表記が見られる場合や、(b) 後倚辞(enclitic)によるアクセントの移動などアクセント記号の付け間違いの場合などで、最も単純な種類の事例と言えよう（トイプナー版を底本としている Loeb 版のギリシア語テキストでも、これらについてはそれと明示的に断ることなしに多くの箇所で訂正が施されている）。その正しい対処に必要なことは、本稿の印刷で同種の誤りを繰り返さないことに尽きよう（以下、(1)、(2)、(3)及び(5)の項目の表記においては、コロン(:)の前が Susemihl のテキストの表記、後が修正された表記を示す——必要に応じて写本の略号を付記⁽¹²⁾⁽¹³⁾）。

<Book I> 1181a24 ἄν : ἄν; 1182a7 μῆ : μῆ; 1182a33 δυνάμεως ἐστὶ τι : δυνάμεως ἐστὶ τι⁽¹⁴⁾; 1182b17 τοῦτο ἐστὶ : τοῦτό ἐστι⁽¹⁵⁾; 1183a10 γάρ : γάρ; 1183b32 ταῦτοις : τούτοις; 1184a21 βέλτιστον ἐστίν : βέλτιστόν ἐστιν⁽¹⁶⁾; 1184b31 τοίνυν τιῶ : τοίνυν τιμ⁽¹⁷⁾; 1185a9 ἐνέργεια ἐστίν : ἐνέργειά ἐστιν⁽¹⁸⁾; 1185a18 τρέφεσθαι² : τρέφεσθαι; 1185a23 ἂν τις : ἂν τις; 1185a39 ἀπλῶς : ἀπλῶς⁽¹⁹⁾; 1185b2 ψυχῆ : ψυχῆ⁽²⁰⁾; 1185b6 τοιοῦτα : τοιαῦτα; 1185b18 ἐπὶ τε : ἐπὶ τε; 1186a27 ἀλήθεια ἐστίν : ἀλήθειά ἐστιν⁽²¹⁾; 1186b1 τοιοῦτόν ἐστίν : τοιοῦτόν ἐστιν⁽²²⁾; 1187a3 ῥᾶδιον ἐστὶ : ῥᾶδιόν ἐστι⁽²³⁾; 1187a11 τινες εἰσίν : τινές εἰσιν⁽²⁴⁾; 1187b2 γάρ : γάρ; 1187b6 γεννητικὸν ἐστίν : γεννητικόν ἐστιν⁽²⁵⁾; 1188a7 κακὰ ἐστίν : κακὰ ἐστιν⁽²⁶⁾; 1188a23 ἐκούσιον ἐστίν : ἐκούσιόν ἐστιν⁽²⁷⁾; 1188a31 κακὰ ἐστίν : κακὰ ἐστιν⁽²⁸⁾; 1188b5 δε : δε; 1188b10 γάρ : γάρ; 1189a13 τοῦνομαι : τοῦνομα; 1191b32 οὐδ' : οὐδ'; 1192a34 ἄξιός ἐστίν : ἄξιός ἐστιν⁽²⁹⁾; 1192b1 δαυανᾶ : δαυανᾶ; 1192b19 ψεκταὶ εἰσίν : ψεκταὶ εἰσιν⁽³⁰⁾; 1192b34 τις ἐστίν : τίς ἐστιν⁽³¹⁾; 1193a24 ἐπαινετὸς ἐστίν : ἐπαινετός ἐστιν⁽³²⁾; 1193a30 αὐτῶ : αὐτῶ; 1193b10 ἀρετῆ ἐστίν : ἀρετῆ ἐστιν⁽³³⁾; 1193b20 ἄμισον ἐστίν : ἄμισόν ἐστιν⁽³⁴⁾; 1193b28 δίκαιον ἐστὶ : δίκαιόν ἐστι⁽³⁵⁾; 1193b32 δίκαιον ἐστὶ : δίκαιόν ἐστι⁽³⁶⁾; 1193b34 δίκαιον [ἐν] τισὶ : δίκαιόν [ἐν] τισι; 1194a20 ἀντικαταλλάττεσθαι : ἀντικαταλλάττεσθαι⁽³⁷⁾; 1194a22 ὠνητὰ ἐστίν : ὠνητὰ ἐστιν⁽³⁸⁾; 1194b2 δίκαιον ἐστίν : δίκαιόν ἐστιν⁽³⁹⁾; 1194b27 πολιτικὸν ἐστίν : πολιτικόν ἐστιν⁽⁴⁰⁾; 1194b33 βαλλειν : βάλλειν; 1194b34 ἀριστερὰ ἐστίν : ἀριστερά ἐστιν⁽⁴¹⁾; 1195a10 ἄδικον ἐστὶ : ἄδικόν ἐστι⁽⁴²⁾; 1195a25 μῆθ' : μῆθ'; 1195a30 αἰτιος ἐστίν : αἰτιός ἐστιν⁽⁴³⁾; 1195b9 βλάπτεσθαι ἐστίν : βλάπτεσθαί ἐστιν⁽⁴⁴⁾; 1196a5 ἀναφορὰ ἐστίν : ἀναφορὰ ἐστιν⁽⁴⁵⁾; 1196b23 ὑποκείμενα ἐστίν : ὑποκείμενά ἐστιν⁽⁴⁶⁾; 1196b31 δ' ἐστίν : δ'

(1) まず最初に指摘されるのは、その多くの事例が (a)

ἐστίν⁽⁴⁷⁾; 1197a18 ἀρετὴ ἐστίν : ἀρετὴ ἐστίν⁽⁴⁸⁾; 1197b5 ἀρετὴ ἐστίν : ἀρετὴ ἐστίν⁽⁴⁹⁾; 1197b7 γὰρ ἐστίν : γὰρ ἐστίν⁽⁵⁰⁾; 1197b9 ἀρετὴ ἐστὶ : ἀρετὴ ἐστὶ⁽⁵¹⁾; 1197b10 ἀρετὴ ἐστίν : ἀρετὴ ἐστίν⁽⁵²⁾; 1197b30 ἕως γέ : ἕως γε; 1198a14 καλὰ : καλᾶ; 1198a17 ὁρμῆ : ὁρμῆ; 1198a25 ἐπαινεταὶ εἰσίν : ἐπαινεταὶ εἰσίν⁽⁵³⁾; 1198b5 πρακτικαὶ εἰσίν : πρακτικαὶ εἰσίν⁽⁵⁴⁾;

<Book II> 1198b36 μῆ : μῆ⁽⁵⁵⁾; 1199a13 εὐτυχήματα ἐστίν : εὐτυχήματα ἐστίν⁽⁵⁶⁾; 1199a28 ἀγαθόν² : ἀγαθόν; 1199b14 ἀγαθὰ εἰσίν : ἀγαθὰ εἰσίν⁽⁵⁷⁾; 1199b34 οὕτως : οὕτως; 1200a2 ἔχοντι ἐστίν : ἔχοντί ἐστίν⁽⁵⁸⁾; 1200a7 ἄγῃ : ἄγῃ; 1200a31 ἀρεταὶ : ἀρεταὶ⁽⁵⁹⁾; 1200b18 ἀνθρωπον ἐστίν : ἀνθρωπὸν ἐστίν⁽⁶⁰⁾; 1200b27 φαῦλα εἰσίν : φαῦλά εἰσίν⁽⁶¹⁾; 1200b31 γὰρ εἰσίν : γὰρ εἰσίν⁽⁶²⁾; 1200b35 ὑπὸ τινός : ὑπὸ τινος⁽⁶³⁾; 1201a3 φαῦλα εἰσίν : φαῦλά εἰσίν⁽⁶⁴⁾; 1201a4 δὲ γε : δὲ γε; 1201a10 ἂν τις : ἂν τις; 1201a14 δὲ γε : δὲ γε; 1201a16 δέ : δέ; 1201a26 καλὰ : καλᾶ; 1202a3 αὐτοὶ εἰσίν : αὐτοὶ εἰσίν⁽⁶⁵⁾; 1202a5 αὐτοὶ εἰσίν : αὐτοὶ εἰσίν⁽⁶⁶⁾; 1202a7 αὐτὸς ἐστίν : αὐτὸς ἐστίν⁽⁶⁷⁾; 1202a22 οὐκ ἔπαινετός : ἐπαινετός; 1202a31 σῶμα ἐστίν : σῶμά ἐστίν⁽⁶⁸⁾; 1202b3 ἄ ἐστίν : ἄ ἐστίν⁽⁶⁹⁾; 1202b32 καρτερικὸς ἐστίν : καρτερικὸς ἐστίν⁽⁷⁰⁾; 1203a4 ἀκράτης : ἀκρατής; 1203b11 ἐξασθενεὶ πῶς : ἐξασθενεὶ πῶς⁽⁷¹⁾; 1203b12 ἐγκρατής ἐστίν : ἐγκρατής ἐστίν⁽⁷²⁾; 1203b24 ἀκρατής ἐστίν : ἀκρατής ἐστίν⁽⁷³⁾; 1203b35 τοιοῦτος ἐστίν : τοιοῦτός ἐστίν⁽⁷⁴⁾; 1204a6 φρόνιμος : φρόνιμος⁽⁷⁵⁾; 1204a13 μὲν ἐστίν : μὲν ἐστίν⁽⁷⁶⁾; 1204b18 ἡδονῆ : ἡδονῆ; 1204b19 δὲ τις : δὲ τις; 1204b20 οὐκ ἐστίν : οὐκ ἐστίν⁽⁷⁷⁾; 1204b33 αἰσθητὸν ἐστίν : αἰσθητὸν ἐστίν⁽⁷⁸⁾; 1205a16 ἡδοναὶ εἰσίν : ἡδοναὶ εἰσίν⁽⁷⁹⁾; 1205b1 ἀγαθόν ἐστίν : ἀγαθόν ἐστίν⁽⁸⁰⁾; 1205b25 ἐνέργειαι εἰσίν : ἐνέργειαι εἰσίν⁽⁸¹⁾; 1205b26 τῆς (bis) : τῆς; 1206b39 ποιητικὴ ἐστίν : ποιητικὴ ἐστίν⁽⁸²⁾; 1207a25 κύριος ἐστίν : κύριός ἐστίν⁽⁸³⁾; 1207b25 κάγαθον φασί : κάγαθον φασί⁽⁸⁴⁾; 1207b33 καλὰ ἐστίν : καλᾶ ἐστίν⁽⁸⁵⁾; 1207b36 ὑγιεινὰ ἐστίν : ὑγιεινὰ ἐστίν⁽⁸⁶⁾; 1208a13 ἔνεκεν ἐστίν : ἔνεκεν ἐστίν⁽⁸⁷⁾; 1208b29 ἐστι : ἐστι⁽⁸⁸⁾; 1208b32 ἀψυχα ἐστίν : ἀψυχὰ ἐστίν⁽⁸⁹⁾; 1209a15 τὰγαθόν : τὰγαθόν; 1209b3 ἀρετὴν : ἀρετὴν⁽⁹⁰⁾; 1209b27 καθ' ἀρετὴν : καθ' ἀρετὴν; 1209b33 μῆ τις : μῆ τις; 1210a17 χρήσιμα εἰσίν : χρήσιμὰ εἰσίν⁽⁹¹⁾; 1210a19 τροφὴν τινα : τροφὴν τινα⁽⁹²⁾; 1210b10 φίλειν : φιλεῖν; 1210b31 ἂν : ἂν; 1212a31 φίλαντος ἐστίν : φίλαντός ἐστίν⁽⁹³⁾; 1213b4 πολλοὺς : πολλοὺς.

(2) ギリシア語の単語としては存在するが、その読みを

採る写本 (and/or 刊本や先行研究による推測 conjectures — 以下、写本 (等) と表記 —) の存在は報告されていないのみならず、Susemihl 自身の提案である旨の表示もなく⁽⁹⁴⁾、構文上もしくは内容上そのままでは読解困難な場合。印刷ミスの可能性が高く、修正の妥当性も高いと考えられる。

1191b32 οὐ : οὐ Tauchnitziana, αὐ cett.⁽⁹⁵⁾; 1202a13 λόγῳ : λόγῳ⁽⁹⁶⁾; 1203b1 ἦ : ἦ⁽⁹⁷⁾; 1210b21 ὑπερέχονται : ὑπερέχοντα⁽⁹⁸⁾.

(3) ギリシア語の単語として存在し、またその読みを採る写本 (等) も存在しているが、構文上もしくは内容上そのままでは読解困難な場合。依然印刷ミスの可能性が高く、修正の必要性も高いと考えられる。

1210a32 ἦ Tauchnitziana : ἦ⁽⁹⁹⁾.

(4) ギリシア語の単語として存在し、また構文上もしくは内容上も可能であって、しかもその読みを採る写本 (等) の存在も (Susemihl 以外の研究者によって) 報告されている場合。

この種の事例には、それらの写本 (等) が、Susemihl がテキストの校合 (collation) にあたって使用した写本群 (等) のなかに含まれている場合と含まれていない場合の両方があるが、いずれの場合も、Susemihl が採っている読み方が、(a) 単純な印刷ミスによる偶然の産物であるのか、(b) 彼が参照した写本 (等) の表記など文献情報が欠落しているのか、それとも、(c) Susemihl 自身の提案によるものであるのか判然とせず、いずれにしてもテキスト校訂上問題が残ろう。

この場合、写本 (等) の裏付けを持つ複数の読みの方の比較考量が必要となり、当該箇所での複数の読みの方の蓋然性の検討のみならず、それぞれの写本 (等) の全般的な信頼性の度合の比較などの検討も必要となろうが、可能な複数の読みの方の間の正誤や蓋然性の高低に関する評定は後日を期すことにして、本稿では、Dirlmeier 及び Johnstone が “Druckfehler” もしくは “misprint” として提示している箇所をはじめ管見に触れたものも含めて、それぞれの読みを持つ典拠の表示のみを記載することにしよう⁽¹⁰⁰⁾ (斜線 (/) の前が Susemihl が採用している読み方とそれを採る写本 (等)、後がそれ以外の写本 (等) で、(一部を除いて) 斜線前後の写本 (等) はいずれも Susemihl によって言及されていない)。

<Book I> 1181a27 ποῖον Bas.³ Bk. Tauchnitziana Bu. / ποῖον K^b P^b C^c A L B⁽¹⁰¹⁾; 1182b33 τῶν μέρος Tauchnitziana / τῶν κατὰ μέρος K^b P^b C^c A L B Bk. Bu.⁽¹⁰²⁾; 1183b14 καὶ τῶν ἄλλων Tauchnitziana / καὶ ἐπι

τῶν ἄλλων K^b Bk. Bu.⁽¹⁰³⁾; 1184a14 καὶ τέλος A L / καὶ τὸ τέλος K^b P^b C^c B Bk. Tauchnitziana Bu.⁽¹⁰⁴⁾; 1184b9 τὸ εὖ B Tauchnitziana / τῶ εὖ K^b P^b C^c A Bk. Bu.⁽¹⁰⁵⁾; 1187a8 ὄντιναοῦν Casaubonus Bk. Tauchnitziana Bu. / ὄντινοῦν K^b P^b C^c A L B⁽¹⁰⁶⁾; 1188b8 βιαζομένους Tauchnitziana / βιαζομένους cett.⁽¹⁰⁷⁾; 1189a15 βέλτιον Bk. Bu. / βέλτιστον P^b C^c L A rc. B Tauchnitziana⁽¹⁰⁸⁾; 1190a4 τὰ κατὰ B Tauchnitziana / τὰ πρὸς K^b P^b C^c A L Bk. Bu.⁽¹⁰⁹⁾; 1190b32 αὐτοὺς B Tauchnitziana / om. K^b P^b C^c A L Bk. Bu. 1192a33 αὐτὸν corr. P^b A L / αὐτὸν K^b pr. P^b C^c; 1193a17 πῶς L / πῶς cett.; 1193a27 αὐτῶ γρ. Casaubonus Bk. Bu. / αὐτῶ K^b P^b C^c A L B; 1193a30 αὐτῶ Bk. Bu. / αὐτῶ K^b P^b C^c A L B; 1193a32 αὐτῶ P^b L Bk. Bu. / αὐτῶ cett.; 1193a35 αὐτῶ Casaubonus Bk. Bu. / αὐτῶ K^b P^b C^c A L B; 1193b21 αὐτοῖς L / αὐτοῖς K^b P^b C^c A V; 1194a11 αὐτοῖς L / αὐτοῖς cett.; 1194a19 αὐτοῦ K^b V / αὐτοῦ P^b C^c A, om. L; 1194b9 πολιταί Bk. Bu. / πολιταί P^b L, πολιτικοί K^b C^c A V⁽¹¹⁰⁾; 1194b33 μελετῶμεν D, ci. Sylburg / μελετῶμεν K^b P^b C^c A L V; 1195b25 τοῖς τοιοῦτοις λόγοις Tauchnitziana / τοῖς τοιοῦτους λόγους K^b P^b C^c A L B Bk. Bu., τοῖς ἐν τοιοῦτοις λόγοις Ald.⁽¹¹¹⁾; 1196a27 αὐτῆς Casaubonus Bk. Bu. Tauchnitziana / αὐτῆς K^b P^b C^c A L V; 1197b3 τοῦτο Tauchnitziana / τοῦτων K^b P^b C^c L B Bk. Bu., τοῦτων A⁽¹¹²⁾; 1198b19 αὐτῆς Bk. Bu. / αὐτῆς K^b P^b C^c A L V;

<Book II> 1198b34 ταῦτα Casaubonus Bk. Tauchnitziana Bu. / ταῦτα K^b P^b C^c A L V⁽¹¹³⁾; 1199a7 ἡ alterum P^b L K^b / ἡ C^c A V; 1200a35 μὲν μέχρι Ald. Tauchnitziana / μὲν οὖν μέχρι K^b P^b C^c A L V Bk. Bu.⁽¹¹⁴⁾; 1200a36 ποιησαμένοις Tauchnitziana / ποιησαμένους cett.⁽¹¹⁵⁾; 1200b14 βελτίων A K^b / βέλτιον cett.; 1201b6 οὐθεν Par. 2024 / οὐδεν K^b P^b C^c A L V; 1202b9 ἂν Tauchnitziana / ὦν cett.; 1203a3 αὐτῶ Bk. Bu. / αὐτῶ K^b P^b C^c A L V; 1203a4 αὐτῶ Bk. Bu. / αὐτῶ K^b P^b C^c A L V; 1203b3 αὐτόν corr. P^b / αὐτόν cett.; 1203b11 πῶς C^c L / πῶς cett.; 1203b30 γενομένων Ald. Tauchnitziana / γινομένων cett.⁽¹¹⁶⁾; 1205b19 μῆ Bas.³ Tauchnitziana / οὐ P^b C^c A L Bk. Bu., om. K^b V⁽¹¹⁷⁾; 1207b38 αὐτῶ Bk. Bu. / αὐτῶ K^b P^b C^c A L V; 1208a11 αὐτοῦ Bk. Bu. / αὐτοῦ K^b P^b C^c V, ἐαυτοῦ A L; 1208a17 αὐτῆς Bk. Bu. / αὐτῆς K^b P^b C^c A L V; 1208a19 αὐτοῦ Bk. Bu. / αὐτοῦ K^b P^b C^c A L V; 1208a27 φησί L Bas.¹ / φησι Tauchnitziana, φῆσει K^b P² A V Bk. Bu., φύσει P^b C^c⁽¹¹⁸⁾; 1208b11 et 13 κεραμίδος D Bk. Bu. / κεραμίδος K^b P^b C^c A L V Tauchnitziana⁽¹¹⁹⁾; 1208b13 κεραμίδι Bk.

Bu. / κεραμίδι P^b C^c A L V Tauchnitziana, κεραμίδι sic K^b⁽¹²⁰⁾; 1209a2 αὐτῶ Bk. Tauchnitziana Bu. / αὐτῶ K^b A V, ἐαυτῶ L; 1209b34 αὐτοῖς Bk. Tauchnitziana Bu. / αὐτοῖς K^b A, ἐαυτοῖς L; 1210a12 αὐτῶ Bk. Bu. / αὐτῶ K^b P^b C^c A L V Tauchnitziana; 1210b33 αὐτὸν corr. P^b V / αὐτὸν K^b P^b C^c A, ἐαυτὸν L; 1210b39 αὐτῶ P^b / αὐτῶ K^b A L V C^c Bk. Tauchnitziana Bu.⁽¹²¹⁾; 1211a1 αὐτὸν K^b pr. P^b Tauchnitziana / αὐτὸν corr. P^b C^c B Bk. Bu., ἐαυτὸν L⁽¹²²⁾; 1211a16 αὐτὸν V / αὐτὸν K^b A, ἐαυτὸν L; 1211a19 αὐτοῖς K^b V / αὐτοῖς A, ἐαυτοῖς L; 1211a24 αὐτοῖς Sylburg / αὐτοῖς A V, αὐτοῖς sic K^b; 1211a25 αὐτὸν V / αὐτὸν K^b A, ἐαυτὸν L; 1211a27 αὐτὸν Sylburg / αὐτὸν K^b A V, ἐαυτὸν L; 1211a30 αὐτὸν Sylburg / αὐτὸν K^b A V, ἐαυτὸν L; 1211a31 αὐτόν D Sylburg / αὐτόν K^b A V, ἐαυτόν L; 1211a36 αὐτὸν L Sylburg / αὐτὸν K^b A V; 1211a37 αὐτὸν B L / αὐτὸν K^b V; 1211b34 αὐτοῦ Bk. Bu. / αὐτοῦ K^b P^b C^c A L V; 1211b37 αὐτοῦ Bk. Bu. / αὐτοῦ K^b P^b C^c V, corr. A, δέκατον pr. A, om. L; 1212a22 αὐτὸν P^b / αὐτὸν K^b A V, αὐτῶν C^c, ἐαυτὸν L || αὐτόν P^b / αὐτὸν K^b A V, αὐτῶν C^c, ἐαυτὸν L; 1212b4 τούτου P^b A L / τοῦτο K^b C^c V; 1213a3 αὐτοῦ P^b V / αὐτοῦ K^b C^c B, om. L; 1213a15 αὐτόν K^b P^b A V / αὐτὸν C^c, ἐαυτὸν L; 1213a16 αὐτῶν K^b corr. P^b / αὐτῶν pr. P^b C^c A L⁽¹²³⁾.

(5) 以上本文部分の他に、apparatus criticus の部分にも印刷ミスと考えられるものが存在する。

<Book I> 1181a26 ἂν : ἂν; 1182a17 ἐστίν : ἐστίν; 1186a34 λυπῆ ἐστὶ P² : λύπη ἐστὶ P²; 1188a22 κακὰ τὴν Π² P² : κατὰ τὴν Π² P²; 1190b31 οὐ φαμεν οὐδ' ἐροῦσιν haud sana esse ci. Spengelius : 31 οὐ φαμεν οὐδ' ἐροῦσιν haud sana esse ci. Spengelius⁽¹²⁴⁾; 1191a28 ἂν : ἂν; 1191a38 37. τὰς om. Π² : 38. τὰς om. Π²⁽¹²⁵⁾; 1192a33 ἦ] ἦ pr. K^b (cx. rc.) : ἦ] ἦ pr. K^b (crx. rc.); 1193b1 ἂν λάβοιμεν : ἂν λάβοιμεν; 1194b15 secludenda : secludenda; 1195a8 ταυτὸ : ταυτὸ, ταυτὸ : ταυτὸ; 1197a29 cf. 1199b, 34 : cf. 1198b, 34; 1198b2 ποιητικός : ποιητικός;

<Book II> 1201a16 μηθεν : μηθεν; 1203b8 traiciendum : traiciendum; 1203b9 ἂν ἄσαιτο : ἂν ἄσαιτο || ἂν ἐάσαιτο : ἂν ἐάσαιτο; 1203b29 ὁ post οἶος om. K^b Ald. : 29 ὁ post οἶος om. K^b Ald.⁽¹²⁶⁾; 1208a28 K² : K^b; 1209b5 τὰγαθὰ : τὰγαθὰ; 1209b39 ἀφέλης : ἀφέλης; 1213b4 δεοὶ ἂν : δεοὶ ἂν.

<Addenda et Corrigenda> (p.100) 1196a10 ἔλαττον : εἰ : ἔλαττον εἰ.

II

さて、『大道德学』の批判校訂版作成の為の準備作業にとって、以上の「印刷ミス」より重要と思われる誤りは、諸写本や印刷諸刊本が採っている読み方、並びに、先行研究による推測について、Susemihl が criticus apparatus の部分で提示している報告をめぐる誤りや報告洩れの類 (“misreportings” (Johnstone), “mangelhafte Notierung” (Dirlemaier)) である。現在までに『大道德学』の写本として45本が報告されているが、このうち主要なものとして考えられるのは数本であり、先行研究もそれらを主な研究対象として来た。それに応じて指摘された誤りもそれらの写本に集中している。今後の作業のためにも、以下に挙げておこう ((多少の?) 便宜を考慮して、誤報告と報告洩れを分けて記載してみた。尚、誤報告の場合、コロン(:)の前が Susemihl のテキストの表記、後が修正された表記を示す)⁽¹²⁷⁾。

(1) P^b写本の誤報告／報告洩れ

《誤報告》

<Book I> 1182a23 *εικότως II*² : *εικώς* pr. P^b, *εικότως* rc. P^b; 1183a31 *τὸ* om. M^b P^b Bk. Bu. : *τὸ* om. M^b Bk. Bu.; 1191a5 *οἶον οἱ* P^b : *οἶον οἱ* pr. P^b, *οἶον οἱ* corr. P^b; 1191a17 *τὸν ὁποιοῦν ἀνδρείον II* : *τὸν ὁποιοῦν ἀνδρείον* M^b P², *τὸν ὁποῖον οὖν ἀνδρείον* P^b K^b; 1195a21 *μὲν τι* P^b : *μέντοι* P^b; 1197a26 *αὐτῇ II*² : *αὐτή* P^b; 1198b2 *ὁ* om. II² Bk. : *ὁ* om. Bk;

<Book II> 1200b14 *τῶν ἀρετῶν II*² : *τῶν ἀρετῶν* M^b; 1200b18 *καὶ* om. K^b P^b : *καὶ* om. K^b; 1201b13 *ἔχει* K^b P^b : *ἔχει* K^b, *ἔχ* P^b; 1203a8 *εὐιατώτερος* K^b M^b et pr. P^b, *ἀνιατώτερος* rc. P^b : *εὐιατώτερος* K^b M^b P^b; 1204b27 *ἡ* post *ψυχῆς* add. K^b et pr. P^b : *ἡ* post *ψυχῆς* add. K^b, *ἧ* post *ψυχῆς* pr. P^b; 1205b13 *οἱ μὲν* M^b et rc. P^b : *οἱ μὲν* M^b, supra *οἱ* add *μῆ* s.l. rc. P^b; 1206a34 *διὰ ταῦτα II*² : *διὰ ταῦτα* M^b, *διὰ ταῦτ'* P^b; 1207a34 *ἦ* pr. P^b (crx. rc.) : *ἦ* pr. P^b (crx. rc.), *ἀν* rc. P^b; 1207a38 *τύχη II*² : *τύχη* II²; 1208b4 *ἐπειδὴ γὰρ* ci. Bk., *περ II* Ald. Va. Bk. in textu Bu. : *ἐπειδὴ γὰρ* ci. Bk., *ἐπειδὴπερ* pr. P^b, *καὶ ἐπειδὴπερ* rc. P^b; 1209a4 *μὲν* ante *οὖν* add. P^b Bk. Bu. : *μὲν* ante *οὖν* add. Bk. Bu.

《報告洩れ》

<Book I> 1184a23 *τούτων II*¹ Va. : *τούτων II*¹ P^b Va.; 1186a34 *ἦ*] *ὅτι ἦ* corr. P^b; 1188b1 *ἐκάστω* P^b; 1188b17 *λέγει* P^b; 1190a29 *ἄρ'* P^b; 1194a29 *δε + καὶ* P^b || *καὶ τὸ* om. P^b; 1196b24 *δεῖ* post *εἶναι* add. P^b;

<Book II> 1200a3 *καὶ* ante *παρέσται* add. K^b Ald.,

c. c. om. Bk. Bu. : *καὶ* ante *παρέσται* add. K^b Ald., c. c. om. P^b Bk. Bu.; 1203a6 *εὐιατότερος*] *ἀν* supra *εὐ* rc. P^b, 1203a35 *εἶναι δόξειε* K^b P² : *εἶναι δόξειε* K^b P^b; 1207b20 *εἶη + καὶ* P^b.

(2) K^b写本の誤報告／報告洩れ⁽¹²⁸⁾

《誤報告》

<Book I> 1184a14 *ἀγαθόν -- τὸ ἀγαθόν II* Ald. Bk. Bu. : *ἀγαθόν -- τὸ ἀγαθόν* P^b C^c A L Ald. Bk. Bu., *ἀγαθόν -- ἀγαθόν* K^b; 1185b9 *τὰς τοῦ [τὸν] λόγον ἔχοντος* K^b : *τὰς τοῦτον λόγον ἔχοντα* pr. K^b, *τὰς τοῦ τὸν λόγον ἔχοντος* corr. K^b, *τὰς τοῦ, τὸν λόγον ἔχοντα* corr. K^b (= nescio quis posterior); 1185b11 *εἶναι ἦ II* Ald. Bk. : *εἶναι ἦ* K^b P^b Bk.(?), *εἶναι ἦ* P², *εἶναι ἦ* Ald. ; 1185b14 *ἦ* alterum om. K^b Ald. : *ἦ* alterum K^b Ald.; 1186a34 *ἡδονῆ* K^b P² : *ἡδονῆ* pr. K^b P², *ἡδοναὶ* corr. K^b; 1187a28 *δὲ καὶ τὸ* Ald. et rc. K^b, *δὲ καὶ* pr. K^b : *δὲ καὶ τὸ* Ald. et pr. K^b, *δὲ καὶ [τὸ]*⁽¹²⁹⁾ corr. K^b; 1187b8 *τῶν ἄλλων*] *ἄλλο* P² et rc. K^b, *ἄλλω* pr. K^b : *ἄλλω* aut *ἄλλα* pr. K^b, *ἄλλο* P² et rc. K^b; 1189b16 *ὅποι'* ἂν K^b : *ὅποια* ἂν K^b; 1191a17 *τὸν ὁποιοῦν ἀνδρείον II* : *τὸν ὁποιοῦν ἀνδρείον* M^b P², *τὸν ὁποῖον οὖν ἀνδρείον* P^b K^b; 1192b13 *ἐν οἷς*] *ἐν οἷς II*¹ (crx. rc. K^b) : *ἐν οἷς* pr. K^b, *ἐν οἷς* rc. K^b; 1195a21--22 *τοι* Ald. et pr. K^b : *τοι* Ald., *μέντοι* K^b; 1196b3 *ταυτῶ* K^b : *ταυτῶ* K^b;

<Book II> 1201a9 *ἐποιοῦν* om. II¹ : *ἐποιοῦν* om. Ald.; 1202a5 *πάλιν* om. K^b P² : *πάλιν* om. P²; 1202b38 *οὖν* K^b Ald. : *αὖ*] *οὖν* K^b Ald.; 1205a22 *λαμπρῶ* K^b : *λαμπρῶ* K^b; 1205a22--23 *ἐν Ἰλει*] *ἐν ἰλει* K^b : *ἐν ἰλει* K^b; 1207a12 *ἀντιστάξειεν* pr. K^b : *ἀντιστάξειεν* pr. K^b; 1208b13 *κεραμίδι II*¹ : *κεραμίδι* P^b, *κεραμιδι sic* K^b; 1209a12 *εἶ* K^b, *εἶ* P² Ald. Va. : *εἶ* K^b P² Ald. Va.; 1209b5 *τάγαθὰ* commate non ante, sed post h.v. posito II : *τάγαθὰ* commate nec ante nec post h.v. posito; 1209b36 *κακῶ* post *γὰρ* K^b : *κακῶ* post *γὰρ* K^b; 1210a18 *αὐτὸ* K^b P² : *αὐτὸ* pr. K^b P², *αὐτῶ* corr. K^b; 1210b33 *αὐτῶ* Ald. Va et rc. K^b : *αὐτῶ* Ald. Va, *αὐτῶ* rc. K^b; 1211a24 *ἔστιν* ὡς pr. K^b : *ἔστιν ὡς* pr. K^b; 1212a17 *ἐπέπερ* εἶ τι c. c. : *ἐπεὶ περ* εἶ τι K^b; 1213a21 *ἴδωμεν* K^b, *ἴδωμεν* P² Ald. : *ἴδωμεν* Ald., *ἴδομεν* K^b P².

《報告洩れ》

<Book I> 1182a26 *οὖν* om. K^b; 1182b2 *ἀγαθόν* K^b; 1182b7 *τοῦ*] corr. K^b, *τὸ* pr. K^b; 1182b9 *αὐτοῦ II*² Ald. : *αὐτοῦ II*² K^b, *αὐτοῦ* Ald.; 1182b10 *ιδέα*] corr. K^b, *ειδέα* pr. K^b || *ιδέας*] corr. K^b, *ειδέας* pr. K^b; 1182b12 *ιδέας*] corr. K^b, *ειδέας* pr. K^b || *εἶναι*] corr. K^b, *εἶη* pr.

K^b; 1182b13 *ιδέα*] corr. K^b, *ειδέα* pr. K^b; 1182b19 *ὅ τι*] *ὅτι* K^b; 1182b28 *αὐτῆ* K^b; 1183a16 *τῆ* K^b; 1183a21 *εἰπεῖν*] *ἐστιν εἰπεῖν* pr. K^b, del. corr. K^{b(130)}; 1183a28 *ιδέας*] corr. K^b, *ειδέας* pr. K^b; 1183a30 *ιδέας*] corr. K^b, *ειδέας* pr. K^b; 1183a32 *ιδέα*] corr. K^b, *ειδέα* pr. K^b; 1183a37 *ιδέαν*] corr. K^b, *ειδέαν* pr. K^b; 1183b7 *ιδέαν*] corr. K^b, *ειδέαν* pr. K^b; 1183b11 *ὅτι* om. K^b; 1183b24 *οὐκοῦν*] *οὐκ οὖν* K^b; 1183b29 *χρησασθαι*] *χρησθαι* K^b; 1184a10 *μὲν μόνον* K^b; 1184a17 post *ἐπειδὴ* rasura duarum litterarum = *ὅς* ut vid. K^b; 1184a28 *χωρὶς τούτων* K^b; 1184a29 *ἀλλ'* om. K || *οὕτως* pr. K^b, rasuit *ι* corr.¹ K^b, restituit corr.² K^b; 1184a34 *τῶν*] om. K^b; 1184b13 *ἔχειν* corr. K^b, {pr. K^b} *ει* in ras.⁽¹³¹⁾; 1184b29 *εὐ*¹ om. K^b; 1184b30 *καὶ* om. K^b; 1184b34 *ἀρετῶν*] *αἰρετῶν* K^b; 1185a11 *λέγειν* + *τὸν τοιοῦτον* K^b || *γὰρ*] *δὴ* K^b; 1185a30 *κἂν*] corr. K^b, *καὶ* pr. K^b; 1185a39 *σαφέστερον*] corr. K^b, *σφέστερον* pr. K^b; 1185b11 *τὸ* K^b; 1185b13 *ἢ* alterum om. K^b; 1186a10 *τῆ* om. K^b; 1186a11 *ὅτι τούτων*] corr. K^b, *τούτων ὅτι* pr. K^b; 1186a18 *ὀργιζόμεθα*] rasura unius litterae post alterum *ο* in *ὀργιζόμεθα* (-*οίμεθα* ?) K^b; 1186a34 *λύπαι*] *λύπαι* K^b; 1186b7 *ἀνδρεία*] *ἀνδρεία* K^b || *οὐχ ἢ* K^b; 1186b8 *μεσότητι οὔση* om. K^b; 1186b14--15 *ἀνελεύτεροι* K^b; 1186b20 *ἐστὶ τοῦ μέσου*] *εἶναι τοῦ μέσου ἐγγύτερον οἶον* K^b; 1186b20 *ἢ πορρώτερον* — 21 *γὰρ* om. K^b; 1186b31 *εἶη* + *ἢ* s.l. rc. K^b; 1187a17 *μῆ* + *δὲ* K^b; 1187a25 *φασίν*] *φασιν* K^b; 1187a35 *ἐνεργέστερον* K^b (a 30 *ἐναργέστερον*); 1187b7 *ἀψύχων*] pr. K^b, *ἄψυχον* corr. K^b; 1187b19 *ὅτι* + *καὶ* K^b; 1187b30 *βελτίων*] corr. s. l. K^b, *βέλτιω* pr. K^b; 1188a38 *πρότερον*] corr. K^b, *πότερον* pr. K^b; 1188b33 *ἵπδ* K^b; 1189a2 *ἄλλοις*] *ἀλόγοις* s.l. corr. K^b; 1189a4 *ἐν* om. K^b; 1189a5 *ἀλλ' ἄρα γε*] corr. K^b, *ἀλλ' ἄρα τε* pr. K^b; 1189a23 *τῆ* om. K^b; 1189a25 *ἢ* om. K^b; 1189b22 *γὰρ* om. K^b; 1189b25 *ἀόριστον*] corr. K^b, *ἄριστον* pr. K^{b(132)}; 1190a13 *προθήται*] *πρόθηται* sic K^b; 1190a14 *ἦ*] om. pr. K^b, *ἦ ὁ* s.l. corr. K^b; 1190a17 *δεῖ*] *δὴ* K^b; 1190a34 *πρότερον*] corr. K^b, *πότερον* pr. K^b; 1190b2 *ἀνθρωποι* om. K^b; 1190b10 *ἄρ'* P^b A, *ἀρ'* ut vid. K^b; 1190b11 *ἀποβάλλη* pr. K^b; 1190b27 *ὑπομένει*] *ὑπομενει* sic K^b; 1190b37 *γὰρ* + *ἀπ'* s.l. corr. K^b; 1191a8 *Ἐκτορα*] *ἐκτορα* K^b; 1191a13 *οὐκέτι ἐστὶ ἀνδρείος* om. K^b; 1191a15 *εἶναι* om. K^b; 1191a21 *μῆ παρῆ*] *μῆ* K^b; 1191a28 *ἄν* om. K^b; 1191b8 *οὔτος* + *ὁ* K^b; 1191b10 *ὁ* om. K^b; 1191b14 *πάντα τᾶλλα*] corr. K^b, *πάντ' ἄλλα* pr. K^b; 1191b26 *μεσότητες*] corr. K^b, *μεσότης* pr. K^b; 1191b30 *ὀργίλος*] *ὀργίλος* K^b; 1192a8 *καὶ ὅτε δεῖ* om. K^b; 1192a11 *τὸ*] *τό*

τε K^b; 1192a17 *τὸ*] pr. K^b, *τὰ* rc. K^b; 1192a23 *τῶν* prius] om. K^b; 1192a30 *αὐτοῦς*] *αὐτοὺς* K^b; 1192a31 *ἦ*] corr. K^b, *ἦ* pr. K^b; 1192b14 *μεγαλοπρέπεια*] corr. K^b, *μεγαλοπρέπεια* pr. K^b; 1192b15 *τ'*] pr. K^b, del. corr. K^b; 1192b20 *ἐπαινετός*] corr. K^b, *ἔπαινος*, pr. K^b; 1192b34 *αὐτῶ*] *αὐτῷ* K^b; 1192b37 *πρὸς*] om. pr. K^b, add. s. l. corr. K^b; 1193a9 *εὐλαβηθήσεται*] *εὐλαβῆσεται* K^b; 1193a11 *εὐτραπελία*] corr. K^b, *εὐτραπελεῖα* sic pr. K^b; 1193a12 *τὰ* om. K^b; 1193a21 *πράξεις*] *πράξιν* K^b; 1193a28 *εἰρωνείας*] *ἠρωνείας* K^b; 1193b12 *οὐδὲ*] *ἢ οὐδὲ* K^b; 1193b26 *τῶ*] *τὸ* pr. K^b, *τῷ* sic rc. K^b; 1193b37 *τὸ δίκαιον ἕσον*] *δίκαιον τὸ ἕσον* K^b; 1194a6 *τοῦ δικαίου*] corr. K^b, *τὸ δίκαιον* ut vid. pr. K^b; 1194a18 *τῶ ἀνάλογον*] *τῷ ἀναλόγω* K^b; 1194a23 *νομίσμα*] *νομίσματι* K^b; 1194a39 *ἀκολουθήσαντα*] *ἀκολουθήσουντα* K^b; 1195a5 *καὶ* om. pr. K^b, suppl. corr. K^b; 1195a9 *οὐκ ἐστὶ δὲ* om. K^b; 1195a21 *ἀποκτείνειν* K^b; 1195a38 *ἢ* alterum om. K^b; 1195b5 *πῶς*] *πως* K^b; 1195b12 *ἐλαττον*] *ἐλάττω* K^b; 1195b23 *ἀδικοῖντο*] *ἀδικοῖντο οἱ* K^b; 1195b28 *ἄρα*] *ἀρα* sic K^b; 1196a2 *εἰ*] del. rc. K^{b(133)}; 1196a22 *ἐαυτοῦ* alterum K^b; 1196a24 *αὐτὸν* prius] *αὐτὸν* K^b; 1196a30 *αὐτὸν*] *αὐτὸν* K^b; 1196b2 *ἀλθεία*] corr. K^b, *ἀλθεία* sic pr. K^b; 1196b13 *διωρίσθη μὲν*] *διωρίσθημεν* K^b; 1196b16 *μόριον*] *μόριον λόγον* K^b; 1196b31 *καὶ* prius om. K^b; 1196b36 *ἐπιστήμη*] *ἢ ἐπιστήμη* K^b; 1197a4 *τι* K^b; 1197b1 *ἐκείνως δὲ οὐ συμφέρει* om. K^b; 1197b7 *γὰρ* alterum] om. K^b; 1197b10 post *δῆλον* rasura fere trium litterarum K^{b(134)}; 1197b11 *ἦ*] corr. K^b, *ἦ* ut vid. pr. K^b || *τί* corr. K^b, {pr. K^b} *περὶ ὑπὲρ* K^b; 1198a30 *προσάττη*] corr. K^b, *προσάττει* pr. K^b; 1198a31 *καὶ* prius K^b || *καὶ* alterum K^b; 1198b6 *αὕτη*] *αὕτῃ* K^b; 1198b7 *οἶ*] *οἱ* K^b; 1198b9 *τῆ* om. K^b;

<Book II> 1199a2 *τὸ δὲ δὴ* K^b; 1199a3 *τοῦ ἐπεικοῦς*] *τῶν τοῦ ἐπεικοῦς* K^b; 1199a28 *αὐτῶ*] *αὐτῷ* K^b; 1199b13 *αὐτῶ*] *αὐτῷ* K^b; 1199b31 *οὐκ* om. K^b; 1199b33 *γὰρ ὁ φαῦλος*] corr. K^b, *ὁ φαῦλος γὰρ* pr. K^b; 1199b34 *οὕτως* K^b; 1199b37 *πότερ'*] *ποτ'* K^b; 1200a7 *ἄγῃ*] *ἄγει* K^b; 1200a19 *οὐ* alterum om. K^b || *φησιν* K^b || *τῆς* om. K^b; 1200a31 *αἰ* om. K^b; 1200b5 *τῆ* om. K^b; 1200b13 *ἀνώνυμος δέ*] K^b; 1200b16 *τῆ* alterum om. K^b; 1200b27 *ἐλοιτ'*] *ἐλοιτ'* K^b; 1200b39 *εἶη* om. K^b; 1201a8 *ἐποίουν* om. K^b; 1201a19 *δοκείτω*] rc. K^b, *δοκεῖ τῷ* pr. K^b; 1201a24 *τῶ λογισμῶ*] *τῶν λογισμῶν* K^b; 1201a33 *ἤγαγεν*] *ἤγεν* K^b; 1201b6 *τῶ*] *τὸ* pr. K^b, *τῷ* sic corr. K^b; 1201b9 post *δόξαν*: *ὧν τὸ μὲν ἐστὶν τὴν ἐπιστήμην ἔχειν ἐπίστασθαι* pr. K^b = 1201b11--12, quae verba infra suo loco re-

petuntur⁽¹³⁵⁾; 1201b11 τὸ post γὰρ om. K^b; 1202a6 ἡρεμῆν] ηρεμῆν sic pr. K^b, ἡρεμῆν sic corr. K^b; 1202a9 ἐσομένου] ἐπομένου K^b; 1202a18 οὐδὲ] οὔτε δὲ K^b; 1202a35 ἀκρασία] ἀκράτεια K^b; 1202a37 ἐστίν om. K^b; 1202b3 ὁ ἀπλῶς] πῶς ὁ K^b; 1202b6 ἀρχῆ] corr. K^b, ὀργῆ ut vid. pr. K^b (136); 1202b17 γραφείου] γραφίον K^b; 1202b22 ἐπιτιμητέα] corr. K^b, ἐπιτιμητε.α pr. K^b ante α rasura unius litterae; 1203a1 ἢ οὐ] που K^b; 1203a6 εὐιατότερος ι in rasura K^b; 1203a10 ὁμῶς] ὁμοίως K^b; 1203a13 ὄσω γε δ τιμώτερον K^b; 1203a28 ἀρχῆ + ἐν δὲ τῷ ἀκρατεὶ ἢ ἀρχῆ in mg. rc. K^b; 1203b5 πείσεται corr. K^b, sed ει in rasura. {pr. K^b}; 1203b16 ἐγγένοιτο] corr. K^b, ἐγγένοιτο pr. K^b; 1203b21 μὲν γὰρ σώφρων ὁ] add. in mg. corr. K^b, om. pr. K^b (137); 1203b36 αὐτὸν] supra αὐτὸν add. s.l. τὸν λόγον corr. K^b; 1204a1 ὁ post οἶος om. K^b; 1204a8 ἀπορήσειε γὰρ ἄν] ἀπορήσει γὰρ K^b; 1204a10 ὁ om. K^b; 1204b18 μὲν K^b; 1204b22 εἰσὶ γενέσεις] corr. K^b, ἔστι γενέσεις pr. K^b post ἔστι rasura unius litterae, ν ut vid.; 1204b25 γένεσιν] γένεσις K^b; 1204b29 τὸ τῆς] τῆς K^b; 1205a3 καὶ πρὸ λύπης om. K^b; 1205a7 συνίδοι] συνείδοι K^b; 1205a16 αἰ K^b; 1205a17 αἰ K^b; 1205a19 ἢ pr. K^b, ἢ corr. K^b ἢ στινοσοῦν] corr. K^b, τινος οἶν pr. K^b; 1205a20 διακείσεται] διακείται K^b; 1205a22 ἀδιάφοροι ci. corr. K^b post γραμματικά rasura trium litterarum K^b (138); 1205a25 δόξαιεν K^b; 1205a28 ἰδιός K^b; 1205b11 φασὶν K^b; 1205b14 οὐ] om. K^b; 1205b15 τούτου] τούτο K^b; 1206a4 ἄλλη K^b; 1206a11 πράττειν alterum K^b; 1206a27 δειπνοποιοῖ] corr. K^b, δεινοποιοῖ pr. K^b; 1206a31 δὲ K^b; 1206b12 διακείμενα] corr. K^b, διακείμενω ut vid. pr. K^b; 1206b16 ἐκλείποντος] ἐκλιπόντος K^b; 1207a12 ἄν τις τάξειεν] corr.² K^b, ἀντιστάξειεν pr. K^b, ἀντιτάξειεν corr.¹ K^b; 1207a15 εὐνοια + ἢ K^b; 1207a18 ἢ alterum om. K^b, 1207a22 ἡμῖν + μὲν K^b; 1207a25 αὐτὸς κύριός K^b; 1207a32 καὶ K^b; 1207b5 δ' εὐτυχίαν] δευτυχίαν K^b; 1207b9 ἢ] ἢ K^b; 1207b20 εἶη + καὶ K^b; 1207b21 συνθέντας K^b τὰ K^b; 1207b25 κάγαθον prius] καὶ ἀγαθὸν K^b; 1207b26 φασὶ] corr. K^b, φησιν pr. K^b; 1208a11 γὰρ om. K^b; 1208a13 ἔνεκέν ἐστίν] ἔχομεν ἔνεκεν K^b; 1208a21 ὅταν πῶς] ὅτ' ἄν πῶς K^b; 1208a22 οὐκ ἐστίν K^b; 1208a24 πῶς] πῶς K^b; 1208a32 ταῦτα] ταύτας K^b; 1208a39 παραδιδόνα] παραδοῦναι K^b; 1208b6 συμπαραληπτέα] corr. K^b, συμπαραληπτέον pr. K^b; 1208b7 ἄ K^b; 1208b10 αἰεὶ τοι] αἰεὶ τι pr. K, αἰεὶ τοι corr. K^b; 1208b17 τῷ ἐναντίῳ] corr. K^b, τὸ ἐναντίον pr. K^b; 1208b18 οὐδὲ] οὐδὲν K^b; 1208b29 πρὸς + τὸν K^b; 1209a28 αἰ om. K^b; 1209a30

ταῦτα] ταῦτα K^b; 1209a38 ὁ prius] post ὁ prius rasura unius litterae K^b; 1209b23 ἀπολείπει] corr. K^b, ἀπολείπει ut vid. pr. K^b (139) post φιλία rasura duarum litterarum K^b; 1210a12 ἔσεσθαι] rc. K^b, οἴεσθαι pr. K^b; 1210a14 γαί] γαία K^b; 1210a27 post τοιοῦτων rasura unius litterae K^b ποιῆ] ποιεὶ K^b ἐλλείπει] ἐλλείπει K^b; 1210a29 μῆν] corr. K^b, μῆν ut vid. pr. K^b ἢ τέλος τῆς] τελοςτῆς sic K^b; 1210a32 ἢ om. K^b; 1210a34 post μῆ rasura duarum litterarum K^b; 1210b1 αἰ om. K^b; 1211a5 τὰλλα] τ' ἄλλα K^b ταύταις K^b ἐστίν K^b; 1211a23 τὰ δὲ] τὰδε K^b; 1211a38 τῷ] corr. K^b, τὸ pr. K^b; 1211a39 αὐτῷ K^b; 1211b13 δόση K^b, sed η in ras.; 1211b15 ἕσον alterum K^b; 1211b27 ἐστίν K^b; 1211b30 οἰκοδομικῆ] οἰ // οἰκοδομικῆ K^b; 1212a4 εὐνοῖ] εὐνοῖ K^b; 1212a7 φιλίας ἢ εὐνοια] ἢ εὐνοια φιλίας K^b; 1212a8 τοῦ τὰγαθὰ] τοῦτ' ἀγαθὰ K^b; 1212a11 ἢ om. K^b; 1212a20 ἢ alterum] εἰ K^b; 1212a35 αὐτοῖς] αὐτοῖς K^b; 1212a38 αὐτοῦ] αὐτοῦ K^b; 1212b3 πείσεται] πῆσεται K^b; 1212b9 ἐαντὸν K^b; 1212b17 αὐτῷ—18 ὄντα om. K^b; 1212b20 δι' ὁ K^b; 1212b27 ὅταν δ'] ὅτ' ἄν δὲ K^b; 1212b30 φίλον] φίλων K^b; 1213a23 ὡς + ἄν K^b; 1213a26 αὐτὸν] αὐτὸν K^b.

(3) P²写本の誤報告／報告洩れ

《誤報告》

<Book I> 1184a29 γε ἀλλ' P² : ἀλλ' ἄρα γε sic P²; 1196a29 τὸ om. II² P² : τὸ om. II²; 1198b6 γὰρ <ἄν> Spengelius, ἄν P² : γὰρ <ἄν> P² Spengelius;

<Book II> 1201a9 ἐποίουν om. II¹ : ἐποίουν om. K^b Ald. Z || συμβαίνει P² Ald. : συμβαίνει Ald., συμβαίνει P²; 1203a35 εἶναι δόξειε K^b P² : εἶναι δόξειε K^b P^b; 1208b14 κῆνα K^b P² (?) : κῆνα K^b.

《報告洩れ》

<Book II> 1201a8 συμβαίνει P² || ἐποίουν om. P²; 1209a7 συμφέροντι K^b C^v et pr. P^b C^c (crx. rc.) : συμφέροντι K^b C^v et pr. P^b P² C^c (crx. rc.); 1210a20 πλείω Ald.] πλείω P² Ald.; 1210a32 πλείω] πλείω P².

(4) アルド版の誤報告

<Book I> 1182b9 αὐτοῦ II² Ald. : αὐτοῦ II², αὐτοῦ Ald.; 1184a20 συναριθμεῖς Ald. et pr. K^b (em. corr.²) : συναριθμεῖς pr. K^b (em. corr.²); 1185b14 ἢ alterum om. K^b Ald. : ἢ alterum K^b Ald.; 1192a3 ἀνελευθέρως Ald. et rc. P^b et pr. K^b (crx. rc.) : ἀνελευθέρως rc. P^b et pr. K^b (crx. rc.); 1197a36 ἐστίν ἢ P² Va., ... ἐστίν Ald. et pr. K^b : ἐστίν ἢ P² Ald. Va., ..., ἐστίν pr. K^b;

〈Book II〉 1203b22 δε om. II¹ (suppl. rc. K^b) : δε om. K^b P² Z (suppl. rc. K^b); 1205b27 βελτίους τε Ald. : βελτίους τε Ald.; 1210a14 ἡ Ald. : ἡ Ald.; 1213a21 ἴδωμεν K^b, ἴδομεν P² Ald. : ἴδωμεν Ald., ἴδομεν K^b P².

(5) バーゼル版の誤報告／報告洩れ

《誤報告》

1186a12 τι Bas.³ : τι Bas.²; 1192a24 δῆ ἡ Bas.² : δῆ ἡ Bas.³; 1193a29 δε Bas.³ : δε Bas.²; 1197a36 ἡ ἐστὶ Bas.³ : ἡ ἐστὶ Bas.².

《報告洩れ》

1197a15 καὶ μὴ τρᾶξαι ὅσα om. Z K^b Ald. Va. : καὶ μὴ πρᾶξαι ὅσα om. Z K^b Ald. Va. Bas.¹, Bas.², Bas.³ || εἰς τὸ συμφέρον ἤδη συντείνει : εἰς τὸ συμφέρον ἤδη* καὶ συντείνει Bas.¹, Bas.², Bas.³.

(6) その他の誤報告／報告洩れ

《誤報告》

〈Book I〉 1189b20--21 20. ὅτι - 21. Ἀρχικλέους om. Z Ald. Par. 2024 (add. etiam C^v Va.) : 20. ὅτι - 21. Ἀρχικλέους om. Ald. Par. 2024 (add. etiam C^v Va.);

〈Book II〉 1204b18--20 ὡς - 20. ἡδονῆ om. Z Par. 2024 : ὡς - 20. ἡδονῆ om. Z, εἰ - 20. γένεσις om. Par. 2024; 1211b9 πρὸς ἄρχοντα Ald. et pr. M^b et corr. P^b,, πρὸς ἄρχοντα Bk. Bu. et corr. M^b : πρὸς ἄρχοντα Ald. M^b et corr. P^b,, πρὸς ἄρχοντα Bk. Bu.

《報告洩れ》

1186b7 θρασύτης ὑπερβολῆ B Bk. Bu, Tauchnitziana; 1187a8 ὀντιναοῦν Casaubonus; 1190b32 αὐτοῦς om. C^c P^b K^b; 1197a26 αὐτῆ Va. Bk. Tauchnitziana Bu.

(7) 先行研究による推測 (conjectures) の誤報告

〈Book I〉 1184b26 ταῦτ' ἄλλα dubitanter ci. Rieckher : τοῦτ' ἄλλα sic dubitanter ci. Rieckher; 1190a21 ἐκάστου aut ἐκάστῳ ci. Spengelius : ἐκάστου aut ἐκάστων ci. Spengelius; 1191 a 17 τὸν ὁποιοῦν ἀνδρείον Bk. Bu. : τὸν ὁποιοῦν ἀνδρείον Bk., τὸν ὁποῖον οὖν ἀνδρείον Bu.; 1192b9 οἶαν Scaliger : τοιαύτη οἶαν] οἶαν Scaliger⁽¹⁴⁰⁾; 1194b5 δίκαιον τὸ II Ald. Bk. : δίκαιον τὸ II Ald., δίκαιον τό Bk.; 1196b22 ὁμοίως] ὡσαύτως Spengelius : ὁμοίως δε] ὡσαύτως Spengelius; 1196 b 35 τᾶληθοῦς Spengelius : ὑπὲρ ἀληθοῦς] τᾶληθοῦς Spengelius; 1197b27-28 τοῦτοις - τοιαῦτα aut τοιούτοις - τοιαῦτα ci. Spengelius : ἐν τοῖς τοιούτοις τε καὶ περὶ ταῦτα] aut τούτοις aut τοιαῦτα ci. Spengelius; 1198b6 προστάξαι Spengelius :

προστάξῃ Spengelius;

〈Book II〉 1200a2 τῷ λόγῳ καὶ secludenda esse ci. Spengelius : λόγῳ καὶ τῷ secludenda esse ci. Spengelius; 1200a3 <εἰ> ἅμα τὸ Spengelius : <εἰ> τὸ ἅμα Spengelius; 1200a12 ἀπορήσειεν ἂν τις Spengelius : ἀπορείται vel ἀπορήσειεν ἂν τις Spengelius; 1200a37--38 εἰ ἀρετῆ καὶ [ἡ] κακία, αὐταὶ εἰσιν ἄτοποι aut εἰ ἀρετῆ καὶ [ἡ] κακία αὐται, ἐστὶν ἄτοπον ci. Spengelius : εἰ ἀρετῆ καὶ κακία, αὐται vel κακία αὐται, ἐστὶν ἄτοπον ci. Spengelius; 1201b9 δε Spengelius : δ' Spengelius; 1201 b33 οἶδεν II² Bk. Bu. Spengelius : οἶδεν II² Bk. Bu.; 1203a12 ἡ ᾧ ἀγαθὸν τέ τι ὑπάρχει add. Bonitzius : ἡ ᾧ ἀγαθὸν μὲν τι ὑπάρχει add. Bonitzius; 1203b10 οὔτε II Ald. Bk. Bu. : οὔτε II Ald. Bk., ** οὐ Bu.; 1203b14. ὁ - 15. κατέχων corrupta esse iudicat Spengelius : 15. ὁ τοιοῦτος - 16. κατέχειν corrupta esse iudicat Spengelius; 1203b17 δε Tauchnitziana : τε Tauchnitziana; 1203 b 20 <ἐγκρατῆς ὁ> σῶφρων olim ci. Rassovius : <ἐγκρατῆς ὁ> σῶφρων olim ci. Bonitzius; 1203b22 πάσχειν <καὶ κρατεῖν> Spengelius : aut κρατεῖν, aut πάσχειν καὶ κρατεῖν Spengelius; 1205a19 γὰρ ἔχη M^b Bk. Bu. : γὰρ ἔχη M^b Bk. Bu.; 1209a5 τῷ <ἀπλῶς> ἀγαθῷ Bonitzius Bu. : τᾶγαθῷ <ἀπλῶς> vel τῷ <ἀπλῶς> ἀγαθῷ Bonitzius, [τῷ ἀπλῶς] ἀγαθῷ Bu.; 1210b21 φιλῶν δῆ τούτων ἡ τυγχάνει ἡ οἶεται Scaliger : φιλῶν δῆ τούτων ἡ τυγχάνει ἡ οἶεται τεύξασθαι Scaliger; 1212a25 πρακτοῖς rc. K^b, πρακτικοῖς c. c. Bk. Bu. : πρακτοῖς rc. K^b Bu., πρακτικοῖς c. c. Bk.; 1212a26 ἐν πρακτοῖς rc. K^b, ἐν τοῖς πρακτικοῖς P² Ald., ἐν πρακτικοῖς c. c. Bk. Bu. : ἐν πρακτοῖς rc. K^b Bu., ἐν τοῖς πρακτικοῖς P² Ald., ἐν πρακτικοῖς c. c. Bk.

結びに代えて

本稿はアリストテレス作と伝えられる『大徳学』のテキストとして学問的に最も信頼度の高いものとして用いられてきた Susemihl 校訂の Teubner 版を、所謂「印刷ミス」や写本(等)の読み方及び先行研究によって提案された推測の報告に関する誤りといった、最も即物的な面で検討し、その問題点を指摘した⁽¹⁴¹⁾。

本稿の性格上、Susemihl の校訂の問題点の指摘ばかりが目立ったが、それは、先行する諸刊本のテキストに比較して優れたものではあって、最初の印刷刊本である Aldus 版第5巻(1498年刊)以来19世紀の後半までに刊行された10種類ほどのアリストテレス全集本に所収の『大徳学』のテキストに比べれば、①新たな写本(P²)の導入など、手

写本 (マニユスクリプト) についてのより完全な知識、②先行の刊本 (Bussemaker) がそれより以前の刊本 (Bekker) から無造作に引き継いだ誤りの訂正、③テキスト校訂上諸家 (Breier, Bonitz, Brandis, Rasso, Ramsauer, Rieckher, Chandler, Spengel, Scaliger) による推測 (conjectures) がもたらした貢献の編入、及び④テキストの読みに関する推測と文章の区切り方 (punctuation) に関する Susemihl 自身の提案がもたらした大きな貢献が指摘されている⁽¹⁴²⁾。またその一方で、「最古の写本⁽¹⁴³⁾が最善の写本」という19世紀のテキスト校訂作業に共通に見られる誤った写本観に由る、伝存写本間の重要性の評定に見られる問題点や、幾つかの写本 (A 写本、L 写本、V 写本) についての知識の欠如といった問題点も指摘されている⁽¹⁴⁴⁾。

これらの点のより実質的な評価も含めて、『大道德学』のテキストの Susemihl による校訂の更なる検討は、次稿を期すことにしたい。

(未完)

〈付録〉

Susemihl が使用した写本や刊本などの略号一覧⁽¹⁴⁵⁾

E. N. = Ethica Nicomachea.

E. E. = Ethica Eudemia.

I' = vetusta translatio.

Z = Oxoniensis Collegi Corporis Christi 112.

K^b = Laurentianus LXXXI, 11.

corr.¹ K^b = correctiones ipsius librari.

corr.^{2,3} K^b = duo eiusdem saeculi correctores.

rc. K^b = corrector tertius.

M^b = Marcianus Venetus 213.

P^b = Vaticanus 1342.

C^c = Cantabrigiensis.

D^c = Romano-Palatinus 165.

P¹ = Parisiensis 2023.

P² = Parisiensis Coislinianus 161.

p² = correctiones eiusdem codicis rubro pigmento scriptae.

Par. 1417 = Parisiensis 1417.

Par. 1855 = Parisiensis 1855.

Par. 2024 = Parisiensis 2024.

Bar. = Baroccianus 70.

Ald. = operum Aristoteleorum editio princeps Aldina.
(ed.) Aldus Manutius, *Opera*, vol.5, Venice, 1498)

II = K^b M^b P^b P² et per 1181 -- 1184a fin. Z C^c, per 1196

b -- 1198a fin. Z.

II¹ = K^b P² Ald. et per 1181 -- 1184a fin. 1196b -- 1198a fin. Z.

II² = M^b P^b et per 1181 -- 1184a fin. C^c.

B^f = libellus de bona fortuna.

C^v = codex Victori.

Va. = Valla.

Bas.¹ = operum Aristoteleorum editio Basileensis prima.

Bas.² = eorundem editio Basileensis secunda.

Bas.³ = eorundem editio Basileensis tertia.

Bk. = Bekker. (Bekker, I. (ed.), *Aristoteles, Graece* II, Berlin, 1831)

Bu. = Bussemaker. (Bussemaker, U. C., *Aristotelis Opera Omnia* (A. F. Didot), vol.2, Paris, 1850)

Tauchnitziana = *Αριστοτέλους Τὰ Σωζόμενα* -- *Aristotelis Opera Omnia quae extant uno volumine comprehensa*, (ed.) C. H. Weise, Lipsiae, 1843.

その他の写本や刊本の略号一覧

A = Ambrosianus B. 95.

B = Vaticanus Barb. 75.

L = Laurentianus LXXXI, 18.

V = Vindobonensis phil. 315.

Bonitzius = Bonitz, H., *Observationes criticae in Aristotelis quae feruntur Magna Moralia et Ethica Eudemia*, Berlin, 1844.

Casaubonus = Casaubonus, I. (ed.), *Operum Aristotelis nova editio, Graece et Latine*, vol.2, Lyon, 1590.

Rieckher = Rieckher, J., *Aristoteles Werke* VI, Stuttgart, 1859.

Scaliger = Oncken, W., 'Scaligeriana zu Aristoteles' ethischen und politischen Schriften', *Eos, Süddeutsche Zeitschrift für Philologie und Gymnasialwesen*, vol. I, Würzburg, 1864, pp.103--112, 213--220.

Spengelius = Spengel, L., 'Über die unter dem Namen des Aristoteles erhaltenen Ethischen Schriften', *Abhandlungen der philosophisch-philologischen Classe der königlich Bayerischen Akademie der Wissenschaften*, III ix, 1841, pp.437--439; III x, 1843, pp. 499--551.

Spengel, L., 'Aristotelische Studien I', *Abhandlungen der philosophisch-philologischen Classe der königlich Bayerischen Akademie der Wissenschaften*, X, 1866,

pp.127--167; 'Aristotelische Studien II', *Abhandlungen der philosophisch-philologischen Classe der königlich Bayerischen Akademie der Wissenschaften*, X, 1866, pp.593--671.

註

- (1) 作品数は、例えば『自然学小論集 *Parva Naturalia*』を一篇と数えるのか、それとも八篇と数えるのか等によって、違ってくる。
- (2) 『色彩について』(Bekker版で8頁、以下同様)、『聴音について』(4頁)、『観相学』(9頁)、『異聞集』(17頁)、『機械学』(11頁)、『分割不可能な線について』(4頁)、『風の方位と名称について』(1頁)、『徳と悪徳について』(2頁)。これらのうちでは『異聞集』が17頁とやや多めだが、自然学関係の文章を寄せ集めたもので、一つの作品としての統一性は弱い。
- (3) *Aristotle Metaphysics Books X--XIV, Oeconomica, Magna Moralia*, Harvard University Press, 1935.
- (4) F. Susemihl (ed.), *Aristotelis quae feruntur Magna Moralia*, Bibliotheca scriptorum graecorum et romanorum Teubneriana, Lipsiae : in aedibus B. G. Teubneri, 1883.

(因みに、暫く(長く?)絶版になっていたと思いきこの刊本は、2009年10月に Kessinger Publishing より、California 大学 Reese 図書館所蔵本の複製の形で再版され、より入手し易くなった模様。)

- (5) *Aristoteles Magna Moralia*, Übersetzt und Kommentiert von Franz Dirlmeier, Fünfte, gegenüber der dritten durchgesehenen, unveränderte Auflage, Akademie Verlag, Berlin, 1983 (1964), (Aristoteles Werke in Deutscher Übersetzung, Band 8).

因みに、Teubner 版(1883年刊)及び Loeb 版(1935年刊)以降に出版された『大道德学』の翻訳で管見に触れたものを見るに、二本の独語訳の内の一つ(Dirlmeier 訳(1958¹年&1966²年刊))、二本の仏語訳の内の一つ(Dalimier 訳(1992年刊))、伊語訳(Plebe 訳(1965年刊))はいずれも Susemihl 校訂の Teubner 版を底本としている。新たなギリシア語テキストとの対訳として意図された Wartelle の仏訳(1987年刊)に底本の記述がないのは、自分で新たな批判校訂を予定していたと考えれば首肯出来よう。Gohlke の独語訳(1951年刊)及び、二本(?)の西語訳(Azcárate 訳(1942年刊)、Azcárate 訳(1972年刊))には底本に関する記載が見当たらない。先にも触れた様に唯一

Loeb 版を底本にしている岩波書店刊『アリストテレス全集』所収の日本語訳の他に、(明示的に) Teubner 版以外のテキストを底本としているものには、Bekker 版を底本として用いているデンマーク語訳(Helms 訳(1954年刊))及びチェコ語訳(Křiz 訳(2005年刊))がある(Wróblewski によるポーランド語訳(1977年刊)は実見出来なかった)。

- (6) Ross, W. D. (ed.), *The Works of Aristotle*, vol.9, *Ethica Nicomachea, Magna Moralia, Ethica Eudemia, and De Virtutibus et vitiis*, Oxford U. P., 1915 ; revised by J. Barnes, *The Complete Works of Aristotle: Revised Oxford Translation*, Princeton U. P., vol.2, 1984.
- (7) Dirlmeier, *op. cit.*, S.476.
- (8) Johnstone, H. M., *Prolegomena to A critical Edition of the Aristotelian Magna Moralia*, St. Hugh College, Thesis submitted for the D. Phil. degree, Oxford university, Hilary Term 1997, p.116.
- (9) Susemihl 自身その Addenda et corrigenda (*op. cit.*, p.100) で四箇所を訂正している(1182 b 17 ἐνυπάρχοντος ἢ οὐ ;] ἐνυπάρχοντος ; ἢ ου ; ; 1187a 23 παραβολῆν] παραβολῆν ; 1196a10 ἐλαττον. εἰ] ἐλαττον εἶ [正しくは εἰ であるべき ; ; 1198 b1 ἀρχιτέτων] ἀρχιτέτων)。
- (10) 以下の箇所の指摘は、既述の先行研究に負う部分が少なくないが、Dirlmeier や Johnstone も見落とした誤りで管見に触れた数十箇所も含まれている。また、それらの先行研究が誤りとして指摘したもの自体が誤っている場合の訂正も含まれている(後者には、(a) 元の Susemihl のテキストもそれらの先行研究による誤りの指摘も両方が誤っている場合と、(b) 先行研究による誤りの指摘が誤っており実は元の Susemihl の表記が正しい場合が含まれる。Susemihl によるトイプナー版の検討を課題とする本稿の性格上、(b) の場合は言及されていない)。

例えば、Dirlmeier が Susemihl のテキストの "Druckfehler" として挙げたものの中には Susemihl 自身が既にその Addenda et corrigenda で既に訂正しているものがあつたり、Dirlmeier が見落とした Susemihl のテキストの "misprint" として Johnstone が指摘している箇所の内には、実質的には既に Dirlmeier が指摘していたものがあり、更には、Susemihl の自己訂正自体にも既に誤りが含まれているなど、抑もこの種の誤りの指摘自体にも誤りの可能性は付き物であり、恐らく本稿もその例外ではあるまい。"Errare est hominis." と言おうか、「校正恐るべし」と言おう

- か。しかしそれでも、誤りは指摘し続けずばなるまい。
- (11) この種の事例についての Loeb 版の未修正は、その旨注記する。
- (12) Susemihl が使用している写本、印刷刊本及びそれ以外のものの略号は、本文末に付録として付記されている。
- (13) テキストの箇所を表記法は、トイブナー版の問題点の指摘という本稿の目的に鑑みて、同版の欄外に表記されている限りでの Bekker 版の頁と行数による。従って、幾つかの箇所で、Bekker 版自体の表示とは行数の点で僅かなズレが生じている場合がある。
- 尚、以下は『大道德学』の新たな批判校訂版に必要な最初の段階として、現在最も基本的と考えられている Susemihl のテキストの表記の修正を主たる課題とするものであり、上記コロン(:)の後に表示されている読みは、テキストの批判的校訂の結果正しいと考えられる読み方を提示したのではない。「正しい」テキストの確定は、更に「遙かに？」先の課題である。
- (14) Loeb 版未修正。尚、以下 Loeb 版未修正の事例の大部分は、動詞 *εἰμί* が後倚辞(enclitic)である変化型の場合に、直前の語にアクセントを「渡して」自己のアクセントを失うという原則に従わないことによるものである。
- (15) Loeb 版未修正。
- (16) Loeb 版未修正。
- (17) Loeb 版未修正。
- (18) Loeb 版未修正。
- (19) Loeb 版未修正。
- (20) Loeb 版未修正。
- (21) Loeb 版未修正。
- (22) Loeb 版未修正。Johnstone の “*τοιοῦτον ἐστίν*” は、誤り。
- (23) Loeb 版未修正。
- (24) Loeb 版未修正。
- (25) Loeb 版未修正。
- (26) Loeb 版未修正。
- (27) Loeb 版未修正。
- (28) Loeb 版未修正。
- (29) Loeb 版未修正。
- (30) Loeb 版未修正。
- (31) Loeb 版未修正。
- (32) Loeb 版未修正。
- (33) Loeb 版未修正。
- (34) Loeb 版未修正。
- (35) Loeb 版未修正。
- (36) Loeb 版未修正。
- (37) Loeb 版未修正。
- (38) Loeb 版未修正。
- (39) Loeb 版未修正。
- (40) Loeb 版未修正。
- (41) Loeb 版未修正。
- (42) Loeb 版未修正。
- (43) Loeb 版未修正。
- (44) Loeb 版未修正。
- (45) Loeb 版未修正。
- (46) Loeb 版未修正。
- (47) Loeb 版未修正。
- (48) Loeb 版未修正。
- (49) Loeb 版未修正。
- (50) Loeb 版未修正。
- (51) Loeb 版未修正。
- (52) Loeb 版未修正。
- (53) Loeb 版未修正。
- (54) Loeb 版未修正。
- (55) Dirlmeier の訂正は、*μη̄* と、鋭アクセントにミスプリント。
- (56) Loeb 版未修正。
- (57) Loeb 版未修正。
- (58) Loeb 版未修正。
- (59) Dirlmeier の訂正は、*ἀρεταί* と、鋭アクセントにミスプリント。
- (60) Loeb 版未修正。
- (61) Loeb 版未修正。
- (62) Loeb 版未修正。
- (63) Loeb 版未修正。
- (64) Loeb 版未修正。
- (65) Loeb 版未修正。
- (66) Loeb 版未修正。Johnstone の “*αὐτοὶ εἰσὶν*” は、誤り。
- (67) Loeb 版未修正。
- (68) Loeb 版未修正。
- (69) Loeb 版未修正。
- (70) Loeb 版未修正。
- (71) Loeb 版未修正。
- (72) Loeb 版未修正。
- (73) Loeb 版未修正。
- (74) Loeb 版未修正。
- (75) Loeb 版未修正。
- (76) Loeb 版未修正。
- (77) Loeb 版未修正。
- (78) Loeb 版未修正。
- (79) Loeb 版未修正。

- (80) Loeb 版未修正。
- (81) Loeb 版未修正。
- (82) Loeb 版未修正。
- (83) Loeb 版未修正。
- (84) Loeb 版未修正。
- (85) Loeb 版未修正。
- (86) Loeb 版未修正。
- (87) Loeb 版未修正。
- (88) Loeb 版は、*ἐστὶ*。
- (89) Loeb 版未修正。
- (90) Loeb 版未修正。
- (91) Loeb 版未修正。
- (92) Loeb 版未修正。
- (93) Loeb 版未修正。
- (94) Susemihl が自分自身で新たな読みを提案する場合は、‘Susem.’ と表示されている。
- (95) cf. “Reading *αὐ̂* for *οὐ̂*, which is evidently misprint.” (Stock). Loeb 版も、*αὐ̂* に修正。
- (96) Loeb 版未修正。
- (97) Loeb 版も、*ἦ* に修正。
- (98) Loeb 版も、*ὑπερέχοντα* に修正。
- (99) om. pr. K^b. Loeb 版は、*ἦ* に修正。
- (100) これ以上の写本間の比較考量は、新たなテキストの校訂というより positive な作業となるが、それには『大道徳学』の現存写本45本の校合という気の遠くなるような大がかりな作業が必要(?)となり、本稿の射程範囲を遙かに超える。
- (101) Loeb 版は、Teubner 版の *ποιόν* を採用。
- (102) cf. “Reading *κατὰ μέρος* (*κατὰ* is omitted by accident in Susemihl’s text.)” (Stock). Loeb 版は、Teubner 版の *τῶν μέρος* を採用。
- (103) cf. “it looks as if *καί* ought to be *κάπι*” (Stock); “Perhaps *κάπι* should be read.” (Loeb 版, p.460 note1).
- (104) Loeb 版は、Teubner 版の *καὶ τέλος* を採用。
- (105) cf. “Reading *τῶ*, for which *τὸ* in Susemihl’s text seems to be a misprint.” (Stock); “Perhaps *τῶ* should be read for *τὸ* Mss.” (Loeb 版, p.466 note1).
- (106) Susemihl は斜線 (/) の後の “*ὄντινοῦν* P^b P² Ald.” のみ報告。Loeb 版は、Teubner 版の *ὄντιναοῦν* を採用。
- (107) cf. “1188b8 reading *βιαζομένους*. *βιαζομένοις* in Susemihl is a misprint.” (Stock); “A misprint for *βιαζομένους* (Stock)” (Loeb 版, p.496 note1).
- (108) Loeb 版は、Teubner 版の *βέλτιον* を採用。
- (109) Loeb 版は、Teubner 版の *τὰ κατὰ* を採用。
- (110) Susemihl は斜線 (/) の後の “*πολιτικοὶ Π V*” のみ報告。
- (111) Susemihl は斜線 (/) の後の “*τοὺς τοιοῦτους λόγους Π Bk. Bu.*” のみ報告。Loeb 版は、諸写本の *τοὺς τοιοῦτους λόγους* を採用。
- (112) Loeb 版は、Teubner 版の *τοῦτο* を採用。
- (113) Susemihl は斜線 (/) の後の “*ταῦτα Π 1*” のみ報告。Loeb 版は、Teubner 版の *ταῦτα* を採用。
- (114) Loeb 版は、Teubner 版の *μὲν μέχρι* を採用。
- (115) Loeb 版は、Teubner 版の *ποιησαμένοις* を採用。
- (116) Loeb 版は、Teubner 版の *γενομένων* を採用。
- (117) Loeb 版は、Teubner 版の *μῆ* を採用。
- (118) Loeb 版は、Teubner 版の *φήσει* を採用。
- (119) Susemihl は斜線 (/) の後の “*κεραμίδος Π 1*” のみ報告。Loeb 版は、Teubner 版の *κεραμίδος* を採用。
- (120) Susemihl は斜線 (/) の後の “*κεραμίδι Π 1*” とのみ誤報告。Loeb 版は、Teubner 版の *κεραμίδι* を採用。
- (121) Loeb 版は、Teubner 版の *αὐτῶ* を採用。
- (122) Loeb 版は、Teubner 版の *αὐτὸν* を採用 (因みに、Dirlmeier の訂正は、*αὐτόν* と、鋭アクセントにミスプリント)。
- (123) 本項(4)の事例は、Loeb 版が、Teubner 版を底本とすることによって、結果として、後者の Susemihl の読み方に写本の裏付けが無く、或いは有ってもその典拠への指示が見られない、言わば根拠の無い／乏しい読み方を採っている箇所が存在を示していると同解されよう。Loeb 版が学問的に十分なテキストを用いているとは言い難いことの一つの証左と言えようか。
本項(4)の事例について付言すれば、Susemihl が採用している読み方と合致する読み方を採っている写本(等)——斜線 (/) の前に表記されているもの——で目につくのは Tauchnitz 版ではなかろうか。(1) Susemihl が序の末尾に付している文献一覧には Tauchnitz 版の記載はないこと、(2) apparatus criticus の三箇所(1193b1, 1203b17, 1203b18)で Tauchnitz 版の読み方(Tauchnitziana)を掲載しているが、いずれの箇所も Susemihl がテキスト本文に採用している読み方とは異なる異読として記載していることと付き合わせてみると、本項(4)の事例における合致は偶然の一致であると言ふべきであろうか(因みに、Susemihl が‘Susem.’という表示で彼自身の提案を明示的に示している箇所は百箇所余りに昇るが、そのうち Tauchnitz 版の読み方と一致しているのは僅かに二箇所であり、この二箇所とも Tauchnitz 版への言及は見られない)。
- (124) 行数表示(31行目)の欠落。

- (125) 行数表示の誤り(37行目ではなく38行目)。因みに、当該頁 (Susemihl, *op. cit.*, p.31) の上部欄外に記載されている、当該頁に含まれているテキストの範囲を示す表示の行数部分も誤っている (“A. 21. 1191a, 36--1191b, 22” は、“A. 21. 1191a, 37--1191b, 22” が正しい)。
- (126) 行数表示 (29行目) の欠落。
- (127) Susemihl のテキストに言及する場合、誤りは修正したものを用いる。
- (128) K^b写本については次のものも参照。
Ashburner, W. (ed.), *Aristotelis Ethica Nicomachea Magna Moralia, Codex Laurentianus LXXXI, 11*, Florence, 1927.
Ashburner, W., “Studies in the Text of the Nicomachean Ethics II”, *Journal of Hellenic Studies*, vol. 37, 1917, pp.31--55; esp. 48--55 on the *Magna Moralia* (因みに、この論文は、Dirlmeier の文献表 (*op. cit.*, SS.113--118; 481--482) には記載が無いが、付録 (Anhang) I の末尾 (S.477) で言及されている)。
- (129) “τδ” は、点 (dots) によって囲まれており、削除の示唆と解される。
- (130) cf. Ashburner, *op. cit.*, p.48: “ἐστιν is dotted over probably by the original scribe.”
- (131) { } 型の括弧は、それによって囲まれた写本の当該箇所が判読困難であることを示す。
- (132) cf. Ashburner, *op. cit.*, p.49: “[1189a] 24, 25 In both cases the first o is above the line in a small hand. Schöll (in Rassow) thinks that the correction is by m. alt. but it may be by the original scribe.”
- (133) cf. Ashburner, *ibid.* “One corrector put three dots over this word, and another erased them.”
- (134) cf. Ashburner, *ibid.* “δῆλον] is followed by an erasure of four or five letters.”
- (135) cf. Ashburner, *op. cit.*, p.50: “The words between δόξαν and ἐπερ are dotted over, but whether by the scribe or by a later hand, as Schöll (in Rassow) thinks, is uncertain.”; Johnstone, *op. cit.*, p.147: “δόξαν + ὦν τὸ μὲν ἐστιν τὴν ἐπιστήμην ἔχειν ἐπίστασθαι = 01b11--12 K¹, del. K².”
- (136) cf. Ashburner, *op. cit.*, p.50: “Schöll (in Rassow) notes ‘ὀργή m. pr., corr. m. alt.’ χ is over an erasure and α looks as if it had been altered from ο. It may have been ὀργή.”
- (137) cf. Ashburner, *ibid.*: “μὲν γὰρ σὺφρων ὁ] is inserted at the end of one line and beginning of another in a smaller and later hand.”
- (138) cf. Ashburner, *ibid.*: “there is an erasure of three or four letters.”
- (139) cf. Ashburner, *ibid.*: “The last two letters are over an erasure. Schöll (in Rassow) has ‘ἀπολείπει m. pr.; corr. m. alt.’ ”
- (140) Scaliger の修正は基本的に Oncken の論文に依るが、そこでは、Scaliger は、Bekker 版の “τοιαυτη (sic) οἶον” に対応する部分を “οἶαν” と修正しているという旨が表記されている (Oncken, W., ‘Scaligeriana zu Aristoteles’ ethischen und politischen Schriften’, in *Eos, Süddeutsche Zeitschrift für Philologie und Gymnasialwesen*, Würzburg, vol. I, 1864, p. 218.)。
- (141) これらの問題点などからも予想される様に、これまで『大道德学』のテキストの新たな批判校訂版刊行の企てが無かったわけではない。アリストテレスの著作及びそれらへの註解の手写本目録 (*Inventaire des Manuscrits Grecs d’Aristote et ses Commentateurs*, Les Belles Lettres, 1963) やアリストテレス作品の用語辞典 (*Lexique de la “Rhétorique” d’Aristote*, Paris, Les Belles Lettres, 1982; *Lexique de la “Poétique” d’Aristote*, Paris, Les Belles Lettres, 1985) など、アリストテレス関連の基礎研究となる著作のある Andre Wartelle が1980年代にフランスの学術雑誌に公刊した仏語訳は、Budé 叢書の希・仏対訳版の仏訳部分の初期形態として出されたものであるが、誠に残念なことに、その後 Budé 叢書の一冊として『大道德学』が刊行された形跡はない (Wartelle, A., “Aristote Grande Morale”, *Revue de l’Institut catholique de Paris*, vol. 23, 1987, pp. 3--90)。神父 (abbé) に相応しく (?), Wartelle は、“Le texte français qui est ici proposé représente donc, en quelque sorte, un premier état de la traduction que l’auteur espère publier, le moment venu, dans la «collection Budé», si Dieu le lui permet.” (p. 8) と述べているが、“À notre grand regret, Dieu ne l’a pas permis.”とでも言うべきか?
- (142) cf. Johnstone, *op. cit.*, p.120.
- (143) 『大道德学』の場合は、9世紀末もしくは10世紀初めに書写と推定されている K^b写本。
- (144) cf. Johnstone, *ibid.*
- (145) Susemihl, *op. cit.*, pp.XVIII--XIX.

A Study on the Text of the supposedly
Aristotelian *Magna Moralia* (I)

Tatsumi NIJIMA

ABSTRACT

This study aims to show the necessity for a new edition of the supposedly Aristotelian work, *Magna Moralia*, by considering the exactness of its most reliable text that is edited by Franz Susemihl, published by Teubner.